

藤沢文化

61号

2025年3月31日

発行
藤沢市文化団体連合会

鎌倉市西鎌倉2-8-4

会長 田口宗迪

巻頭文

雅楽の歴史と今

藤沢市文化団体連合会常任理事 松永耕作

雅楽は一三〇〇年以上前より、今の中国や韓国、ベトナムなど古代アジア大陸から仏教伝来と共に日本に渡ってきた楽舞文化が、日本固有の古楽と融合し、平安時代に日本独自の雅楽が完成されたといわれています。それらが現代にほぼそのままの形で伝承され国の重要無形文化財にも指定されています。

雅楽は、鳳凰の鳴き声と姿を模して作られた天の声とも言われる笙、独特な音色と音域から人の声を表し天と地を結ぶとも言われている龍笛の管楽器と、琵琶・箏の元となった絃楽器、羯鼓・楽太鼓・鉦鼓などの打楽器から構成されています。そのため管・絃・打の三種の楽器が揃って合奏する管絃は世界最古のオーケストラと言われている。また、昨年のNHK大河ドラマ「光る君へ」では、雅楽の管絃や舞楽などを平安貴族が演奏したり舞ったりする多くのシーンが放映されました。中



舞楽「蘇莫者」では聖徳太子に扮して龍笛を吹きます。

でも雅楽特有の管楽器や絃楽器による独奏シーンは圧巻で、特に一条天皇役の俳優（塩野瑛久氏）が龍笛を吹き替えなしで演じたのは大河ドラマ史上初とのことで、話題となりました。実際、「源氏物語」や「枕草子」などにも雅楽の演奏場面が数多く描かれており、千年前の平安時代、平安貴族の中で詩歌管絃は教養の一つとして雅楽がとて親しまれていました。そして、雅楽には次のジャンルがあります。

【管絃】管絃と道楽があります。

【舞楽】源流が中国系の左方舞楽と朝鮮半島系の右方舞楽に分かれています。

【国風歌舞】日本古来のもので東遊・久米舞、五節舞などがあります。

【御神楽】神社の神楽とは異なり、主に皇居で行われる宮廷儀式で演奏されています。

【謡物】平安時代に民間の流行歌や民謡を雅楽風にアレンジした催馬楽、漢詩に曲節を付けて自由な調子・律で歌う朗詠に分かれています。

現在残っている曲目数は管絃だけでも九五曲、左方舞楽が三〇曲、右方舞楽二八曲もあります。一般に演奏されるのは管絃や舞楽が中心で、毎年十二月に行われる

伝統芸能発表会では管絃を中心に行ってきましたが、今後は舞楽や謡物なども披露させて頂く予定です。

【雅楽の沿革】

●四三三年日本書紀によると雅楽演奏の記載あり。

五三一年国風歌舞の東遊が出来たとの記録が残っている。

五九二年大阪の四天王寺が建立され聖徳太子が伎楽（雅楽）を奨励する。

●七〇一年大宝律令により、雅楽を専門に行う機関「雅楽寮」が設立。

●七四三年国風歌舞の五節舞を天皇が作り、皇紀が舞ったとの記録あり。

●七五二年東大寺の法要で管絃や久米舞が行われた記録あり。

●八四〇年に楽制改革が始まり、九九〇年に改革が完了し、楽器編成が現在の形に統一。

●一〇七〇〜一二三三年までに宮中での演奏スタイルが完成。

●一一六七年平清盛が厳島神社で舞楽を演奏の記録。また、源頼朝が開いた鎌倉時代に鶴岡八幡宮で雅楽演奏の記録あり。

●一四六七年応仁の乱が起き、楽人（※雅楽演奏者）たちが離散。同じころ、多くの重要な書物が消失・紛失し、雅楽最大の危機となる。

●一五八八年豊臣秀吉の聚楽第にて舞楽演奏。

●一六四二年徳川家光、江戸城に楽人（※）を招く。

●一八七〇年（明治三年）関西

より楽人（※）が東京に上京。その後、明治選定譜の制作が命じられる。

●一九四五年（昭和二〇年）宮内庁式部色楽部に改称。

これらの他、歴代天皇や殿様も雅楽を嗜んでいた記録もあり、神社仏閣でも雅楽は継承されてきました。藤沢でも遊行寺様では春と秋の開山忌の式典の始まりに稚児行列に合わせ、雅楽が演奏されています。

雅楽の旋律は、西洋音楽に比べて音の間隔が広く、独特の間を持つのが特徴です。作曲家の故坂本龍一氏などが、雅楽の音階やリズムを取り入れた楽曲を制作しており、伝統と現代の融合が見られます。そして、昨年、欧米を中心に流行り、エミー賞史上最多ノミネートを記録した「SHOGUN 将軍」のサウンドトラックが世界で最も権威ある音楽賞グラミー賞にノミネートされました。手掛けたのは、雅楽作曲家である石田多朗氏で、雅楽の管楽器や邦楽器に西洋の弦楽器を組み合わせており、雅楽の楽器だけですと暗く重たくなりがちですが、より明るくより華やかになっており、壮大で綺麗な映像にとっても合っておりです。「SHOGUN 将軍」を観られた方が雅楽や邦楽器に興味を抱くことは、衰退が懸念される日本の伝統文化・音楽への再認識のきっかけとなり、その伝承と創造に向けての道標となるべく、我々の未来に希望をもたらす大きな一歩となるかもしれません。

「郷土愛あふれる藤沢」 「郷土の伝統と文化を引き継ぎ「藤沢らしさ」を後世に」



藤沢市長 鈴木恒夫

藤沢市文化団体連合会の皆様には、日頃からさまざま

な催しでご活躍いただき、本市の文化振興に多大なるご尽力をいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

我が国の長い歴史の中で培われ受け継がれてきた様々な伝統文化を、次の世代に引き継いでいくことは大変重要なことでございます。本市にも後世に引き継ぐべき郷土

の伝統と文化が数多くあり、これらを守り続けることにより郷土愛を育み、先人の努力や想いを理解したうえで、これからの未来を作り上げていきたいと考えています。

そのような中、文団連の皆様がそれぞれの分野における伝統を、未来へと繋げる活動をしていただいておりますことに、深く敬意を表します。皆様の日々の取り組みは歴史と文化を次世代に繋ぎ、人生の楽しみと生きがいを見つけられる、とても重要な活動であり、皆様はその担い手であると思いま

す。

本市としましても、市民の皆様が心豊かに暮らせる「郷土愛あふれる藤沢」を目指す都市像とし、身近で文化芸術に親しめる環境を整えて「藤沢らしさ」のあふれる「湘南の元気都市」にしていきたいと考えております。そのためには、藤沢市文化団体連合会の皆様のお力を欠くことはできません。皆様とのマルチなパートナーシップに基づき、文化の香り高いまちづくりを進めたいと考えておりますので、今後とも皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。

「みなぎるは文化の光」

藤沢市教育委員会 教育長 岩本将宏



『藤沢文化六十一号』が発行されますことを心からお慶

び申し上げます。

また、藤沢市文化団体連合会のみなさまには、日頃よりさまざまな活動を通して、藤沢市の文化・芸術・芸能の普及活動にご尽力いただいておりますこと、心から感謝申し上げます。

『好きこそ物の上手なれ』という言葉がありますが、人生の中で好きな物と出会うことができ、その好きな物を通して出会った仲間と共に、『学びの環・人の和・元気の輪』を広げていくことができ

ることは、心豊かな生活を送るためにとても大切で、尊いことであると思います。一人でも多くの市民のみなさんが、好きな物に出会えるチャンスに恵まれることを願っております。そのためには、文

「コロナ禍を乗り越えたその先に」

公益財団法人
藤沢市みらい創造財団理事長

宮治正志



新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが五類に移行して

から、間もなく二年がたとうとしております。

この間、自粛ムードの下で息をひそめていたさまざまな文化芸術の活動が再開され、中にはコロナ以前の状況を呈しているイベントもあり、大変に喜ばしいことであると思います。

この約三年間にわたる新型コロナナとの戦いの中で、私たちは多くのことを学んだわけですが、私が最も実感したのは、「文化芸術は、人間が生きていくうえで、衣食住と同じぐらい重要で必須のもの」ということであります。

ともすれば、財政難の掛け声の下で、真つ先に切り捨てられがちなのが文化芸術活動であり、不要不急のものというレッテルが貼られがちです。しかし、どんなに抑え込んで、水面下で文化芸術活動がやむことはありませんでした。ある者はネット上で活動を展開し、またある者は、来るべき日を信じて自宅で研鑽に励む、そんな三年間ではなかったか、と思います。

令和六年度は、それまで抑圧されていた活動が一気に噴き出し、藤沢文化が元氣を取り戻した一年でありました。

歴史的な成功を収めた市民オペラ「魔笛」、若い世代も活躍をした伝統芸能発表会、多くの来場者でにぎわった市展、そしてワクワク体験広場。

まさに「みなぎるは文化の光」という、市歌の一節にふさわしい活動が展開された年であったと総括できるのではないのでしょうか。

いま、何の制限もなく自由に文化芸術活動が行える喜びをかみしめながら、藤沢の文化芸術活動のさらなる発展に、当財団もしっかりとその役割を果たしてまいりたいです。藤沢市文化団体連合会の皆様には、今後ともご指導ご鞭撻を、どうぞよろしくお願い申し上げます。



第四十五回

芸術文化展

第四十五回藤沢市芸術文化展が十月二十二～二十七日まで美術家協会、書道家協会、華道協会の三団体の作家達の六十四作品を展示して開催されました。期間中一一七五名の方にご来場いただきました。

ギャラリートークも最終日に行なわれ、各協会の代表者に作品を作り上げていく工程や技

術、見どころを説明していただき、より深く作品を鑑賞することが出来ました。

今後の課題として各団体が次世代育成に力を入れ、この文化展がより長く継続し近い将来新しい市民ギャラリーでの文化展をアピールしていきたいと思

第三十七回

藤沢市
伝統芸能発表会

令和六年十二月十九日(木)、第三十七回伝統芸能発表会が藤沢市民会館小ホールにて盛大に開催されました。平日にも拘わらず、大勢の方のご来場誠に有り難う御座いました。これも偏に各団体の役員の皆様をはじめ多くの方のご協力によるものと厚く御礼申し上げます。

賓挨拶も式典の形式を取らず簡単に挨拶のみとしました。各団体の演技等の内容は省略しますがフィナーレは三曲協会による宮城道雄作曲「北海民謡調」の賑やかな演奏で幕を下ろしました。

さて、賑やかな舞台から離れて第二展示集会ホールは各団体の控室として使用し使用し、その一角に呈茶席を設けておりますが、相変わらず茶道への関心は高く、昨年以上に大盛況だったようです。

私たちは日本古来の伝統芸能・伝統文化を次世代に継承する役目を担っております。しながら、少子高齢化が進む今日、後継者不足が深刻な課題になっております。若い世代とくに低年齢層にも興味を持ち、楽しく気軽に参加出来るような企画が必要かと思っております。ワクワク体験広場もその一環として実施しており効果は大きいと思います。しかし、この深刻な課題を行政・文団連・各団体が共有して真剣に考えて次世代への継

承に努めて参ります。最後に、第三十八回伝統芸能発表会は令和七年十二月十四日(日)で、市民会館小ホールでの最後の開催となります。各団体とも会場の皆様と一緒に楽しめるような企画をお願いいたします。また、令和八年三月以降は市民会館建て替え工事の為四年程閉鎖されますが、その間の開催場所等については文団連のホームページでお知らせいたします。



(美術家協会 ハッ橋博美 記)



(吉原秀峰 記)

第七十四回

藤沢市展報告

二〇二四年（令和六年）六月十八日（火）
七月七日（日）藤沢市ギャラリーにて総合展である第七十四回藤沢市展が開催されました。

写真・華道の部、美術の部、書道の部が三週にわたり、大変多くの方々に来場していただく事が出来ました。このことから藤沢市民の文化芸術に対する意識の高さを伺い知る事が出来ます。

やはり、土、日曜日は家族連れが多く見られ、嬉しかったのは出品した中学生達で熱心に鑑賞し合っている光景でした。市展という市民参加のイベントを通して若い層の方達にもしつかり浸透している事を実感いたしました。

それにつけてもウクライナ侵攻をはじめ、世

界での悲惨な争

い、能登半島の災

害では住民の方々

が未だ困難な生活

状況にあります。

しかし私達には自

分の作品発表出来る

場がある環境に

感謝し、日々研鑽

と努力を重ねて藤

沢市の文化芸術の

発展と向上に継承

出来たらと願って

おります。



（角津菁園 記）

生活文化拠点再整備事業

二〇三〇年供用予定

市民会館がリニューアルオープンするのは、当初の予定より一年延びて二〇三〇年となりました。一年後の二〇二六年四月から市民会館が工事のため閉鎖されます。今の市民会館が使えるのもあと一年という事になりました。『市民会館よ、今まで長い間有難う！』と言いたいです。

さて、私たち文化団体には今後大きな課題ができました。まずは今後の活動内容や活動場所の確保です。四年間の活動をどうするか…市の方とも相談しながら早めの計画を立てたいものです。そして四年後どのような施設ができるか、どんな活動ができるかが最重要です。そのために市は市民の意見をたくさん集めてきました。それは新しい複合施設で『何をやりたいか・何が

できるか』という問いが中心で、施設の具体的な詳細は問われていません。

募集を知って集まった市民の『やりたいこと』だけではなく、文化という広くて高い視点から外せない内容を、行政には責任を持って入れて頂きたいです。

私の所属する美術家協会は要望書を市に提出し、美術展示等の具体的な施設の詳細希望を、市の企画政策課より今年度中に聞き取って頂く約束が出来ております。その頃には同時に他の団体にも具体的な施設の要望を聞き取るとも聞いています。

各文化団体の皆さま、そちらの準備も進めて参りましょう。

（川島 淳 記）

次世代育成事業

二〇二四年（令和六年）三月三十日（土）三十一日（日）第十一回「ワクワク体験ひろば」が実施されました。

会場は藤沢市民会館を全館使用して体験していただきました。好天気に恵まれ、多くの家族連れで賑わいました。

ワクワク体験のスタンプラリーに貼るシールと景品を用意いたしました。

来場者からは、毎年実施してほしいと希望が出されておりますので、期待に添えるよう頑張ります。

文団連十団体の皆様、ご尽力くださった関係各位には、心より感謝申し上げます。

（田口宗迪 記）



藤沢市長 日本舞踊体験



華道ワクワク体験

文団連活動だより

藤沢華道協会

藤沢華道協会の活動は、一月五日の藤沢市賀詞交歓会会場の装花を担当する事から始まりました。同じ一月、華道協会新年総会後には、五年ぶりに食事を共にしながらの会員との懇親会を持つことができました。

華道協会の年間の活動は、藤澤宿交流館での華展と体験教室（二月・十一月）、藤沢市展（六月）、次世代育成を目的とした

藤沢市ワクワクでの体験教室。

これは三月の市民会館と十月の湘南台会場の二回開催。このワクワクでは、他の文化団体との交流も意義深いものです。藤沢市芸術文化展（十月）。そして、藤沢華道協会として最大の華展『諸流展』今年度は十月二十六日・二十七日の二日間、藤沢市民会館にて、藤沢市、教育委員会、文化団体連合会からのご後援の下に、盛大に催す事ができました。体験教室も、コロナ後

米や野菜が高騰し、茶席に生ける花も思った時に咲いてくれなくなりました。

四月十日、会員を迎える総会が市民会館教養室で開催されました。

十月十三日、第六回湘南台ワクワク体験ひろばでは、お客様にお茶を点てる体験をして貰いました。十月二十日、遊行寺に於いて第三十六回藤沢市茶道協会が開催され、大書院席 裏千家 中村宗敏、東席 大日本茶道学会 磯田仙真、奥の間席 藤沢市茶道協会御自席となり

藤沢市茶道協会

ました。大書院席では、茶道協会にご尽力くださった中村宗良先生の追悼の席をされ思いでの茶道具組で偲ばれていました。東席の磯田先生は関係者のみの茶会に続き一般のお客様を迎えての茶席でした。奥の間席ではお客様に自分でお茶を点てる体験をして頂き好評でした。朝方の突然の雨も昼には上がり良いお茶会日和になりました。十二月十九日伝統芸能発表会では呈茶を担当し平日開催でしたが多数の方に御茶を飲んでいただき

ました。市民会館での第十二回ワクワク体験ひろばでは、毎回たくさんの方々に体験して頂いています。

初めて開催致しました。

更には、年間を通じて市役所玄関の花席の挿花を、悪天候の日も猛暑の日も、会員が、一週間交代で担当しております。何処の団体とも同様、会員の高齢化が進んでおりますが、各催し、挿花が例年通り行われておりますのは、ひとえに会員の皆様の責任感の強さによるものと感謝致しております。

また、老人ホームのデイサービスの方々の生花サークルでの指導も会員交代でさせて頂いております。皆さん、毎週和やかに楽しんで、生けていらしゃる

思い起こせば、新型コロナウイルス流行から四年、だんだん「コロナ前」に戻ってきていますが気を引き締めて生活していきたいと思えます。

様子に、お花はどのような状況の方々にも、喜びを与える大切な物であると改めて気付かれます。

他の都市在住の知人から、藤沢市も藤沢市民も文化意識が高い、というお褒めの言葉を頂きました。これからも、藤沢市の文化レベルの向上に藤沢華道協会が一助を担えるよう、努力致して参りたいと存じます。



（井田皇韻 記）

藤沢市書道協会

昨年元日の能登半島大地震、九月の豪雨とダブルパンチの災害のニュースをみるたびに、世の中悪いことばかりではない、良いことも必ず来ると信じ前を向いて歩んでいます。

振り返ってみます。

一、藤沢書道協会展

（二月二十七日～三月三日）

一、藤沢市展

（七月二日～七日）

一、学生書道展
（七月十六日～二十一日）

一、芸術文化展

（十月二十二日～二十七日）

一、ワクワク体験ひろば

（湘南台、十月十二日）

（藤沢、三月三十日）

（三十一日）

等々の活動を進めてきましたが、書道人口の変化、AIの対応など全体に満足する内容ではなかったと思います。

書の世界に身を置く一人として、筆を持って文字を書くことを人生体験の一つに加わえ常にな自分と向き合ってきました。

書道協会は、令和七年（二〇二五）三月に創立七十周年を迎えます。協会全員で、力合わせ準備をしています。一人一人の努力の結集が書道興隆の一助になればと願っております。



（加藤径石 記）

（浅場宗美 記）



藤沢市邦楽協会

藤沢市邦楽協会の演奏会は、第六十二回目になりました。令和六年十月十二日藤沢市民会館で開催、端唄、藤本秀富士社中「三味線ばやし」「十三夜」「祇園小唄」「柳の雨」「さのさ節」「江戸紫」「からかさ」「深川節」「俗曲メドレー」長唄 稀音家六四次社中「末広がり」「岸の柳」「菖蒲浴衣」琵琶大熊阿水「石童丸」佐藤玉水「接待」森中志水「船弁慶」で演奏しました。十二月十九日伝統芸能発表会は森中志水「川中島」稀音家六四次社中「吾妻八景」藤本秀

富士社中「御所のお庭」「オヤオヤかつぱれ」「梅は咲いたか」「奴さん」で演奏、三月の江島神社献奏演奏会は無事に参加しました。全国三大弁財天のもと芸能の神様にあやかりたい気持ちでいっぱいです。今、日本にインバウンドでいっぱいです。江ノ島観光で大変な賑わいです。ワクワクの行事は御族の参加もあり同じ体験していただき微笑ましい光景です。少しでも触れ音出しし手にする機会は大切な事と思います。沢山の人達でうれしい悲鳴でした。大事な楽器の提供も一役かっています。

藤沢市吟詠連盟

詩吟の歴史がある様に藤沢市吟詠連盟にも歴史があります。ここに遠い昔を振り返り、吟詠への思いを深めていきたいと思っています。

朗詠は中国に起こり、日本では奈良朝に始まり平安中期から後期にかけて流行し、その奏法は詩句を三句に分けて、笙・ひちりき・竜笛の伴奏によって歌われました。詩吟はその流れを汲んだもので、幕末江戸昌平学（江戸幕府直轄の最高学府）に一六九一年五代將軍綱吉が江戸湯島に創業し、幕府諸藩士の子

弟に儒教を教え、その書生たちが頼山陽の詩などを吟じたのが始まりと言われています。

現代の吟詠法は、江戸時代末頃に九州の広瀬淡窓が桂林荘と言う今でいう全寮制の私塾を開き、遠い地方の門人達を少しでも元氣付ようと手作りの竹の楽器などを叩きながら全員一緒にやって節をつけ吟じたのが最初とされています。この塾生達が学業を終えて故郷に帰り広めたのが源流とも言われています。時代を経て詩吟が全国に広がり、昭和九年七月には横浜の本牧の八聖殿に於いて全国の名吟家が集まり吟詠大会が開かれま



（稀音家六四次 記）

した。そこには安達漢城、宮本三香他名吟家の面々が名を連ね歴史の一コマとして残されています。

今では二千、三千とも言われる流派があるそうですが、私達藤沢市吟詠連盟はその中の流派派が集まり、和合団結して春季・秋季の吟詠剣詩舞大会を開催しています。

昭和五十三年頃には吟詠連盟の中に婦人部と言う組織が設けられ、婦人部長和田契錦先生、副部長松本宝陽先生を中心に婦人部活動も繰り広げられました。また、バスでの研修旅行を毎年行い、コンダクターの先導

藤沢市美術家協会

彩炎焼壺

（縦四十三cm×横三十五cm）
自然が織り成す美を求め、大壺作り（備前焼を念頭に）土と炎が醸し出した作品です。



紅彩透角七宝紋香炉

（縦三十九cm×横三十六cm）
韓国国宝「高麗青磁香炉」に魅せられ独自に全体のバランス、釉薬の発色具合等追求した作品です。



で合吟した事も今となつては懐かしく思い出されます。

令和三年に吉原理事長の作成された『藤沢市吟詠連盟年表』の通り、昭和三十九年に始まり六十年もの歴史が刻まれています。

健康につながる古典的教育が身につく礼儀作法が身につく、伝統芸能の詩吟を愛好する私達は古い事も大切に詩吟の楽しさを伝え、現代に合わせた詩吟文化を広めて行きたいと思っています。



（櫻井岳諒 記）

藤 沢 雅 楽 協 会

今年度も感染対策は引き続き行いながら、藤沢市の皆様に安全・安心に雅楽を楽しんで頂き、コロナ禍前をしのぐ体制にて、次世代育成、健康寿命を延ばすことを目的に協会を運営してまいりました。

毎年実施している遊行寺様での春の開山忌と秋の開山忌式典では、子ども稚児行列（雅楽の子ども用舞楽の衣装を着て行進）の入場に合わせ雅楽演奏し、子どもがとても愛らしく父兄にも大変好評でした。

大人向け「雅楽入門講座」として、今年度は、湘南台公民館、

済美館で合計五回、雅楽の演奏・説明を行ない、管楽器の体験を実施して、市民の皆様に雅楽の魅力を広く伝えてまいりました。

また、初めての取り組みとして、学校訪問事業と連携し、二月上旬に「子ども雅楽体験講座」を実施して、雅楽の管楽器を体験して頂き、次世代育成に着手しております。三月上旬にも小学生を対象とした「子ども雅楽体験講座」を実施しました。

さらに、令和七年一月の藤沢七福神めぐりに合わせ、常光寺様にて、龍笛の名手であった源義経公を偲んで、龍笛の演奏を二日間行ない、こちらも大変好

評でした。

昨年十二月十九日の平日に行われた「伝統芸能発表会」では、管弦・舞楽・歌物で構成される雅楽より、普段の公演では演奏しない曲目「胡飲酒」の序と破を演奏させて頂きました。（序破急は雅楽の舞楽から出た概念）

今年三月の藤沢市民会館でのワクワク体験ひろばでは、毎年、小さなお子様が多く、龍笛の音が出せない状況でしたが、これを克服するため松永会長が新規に龍笛アダプターを開発し、これを使用したところ誰でも音が出せるようになり、とても好評でした。

来年度

におきましても、文化団体連合会の他の団体とのコラボや市役所、他の協会・団体と連携し、力を合わせて藤沢を盛り上げていく所存です。



（山谷吉樹 記）

藤 沢 日 本 舞 踊 協 会

藤沢日本舞踊協会は、平成五年に旧邦楽舞踊協会から独立する形で創立され、日本の古典舞踊を普及するため、流派を超えて協力しながら公演を重ねてまいりました。

昨年は、「ワクワク体験ひろば」にて日舞の体験会を実施。嬉しいことに前年参加されたお子様が、楽しかったからと再来場くださったり、長時間にわたり日舞を楽しむお子様がいらっしやったりと、未来への希望を垣間見ることができました。また「伝統芸能発表会」では、心

地良くも緊張感のある雰囲気の中「万歳」と「廓八景」を発表させて頂きました。

藤沢市民会館の老朽化による建て替えのため、来年の二月から閉鎖が予定されております。

日本舞踊協会では閉鎖前に本格的な舞台をと、十月二十六日（日）小ホールにて舞踊会を華やかに開催することとなりました。前回の舞台が令和五年に開催されましたが、衣裳かつらを着けない研鑽会だったため、今回のような本舞台は久しく、また古典舞踊の魅力をより多くの方に知っていただきたい一心で会員たちは話し合いを幾度も重ね、少しでも良い舞台をお観せたいと奮闘中です。さらに出演者に至っては、この日のために一年以上前から稽古を始め、努力を重ねている人も少なくありません。

日本舞踊協会による現藤沢市民会館での最後の舞踊会を、ぜひ多くの方々にご覧いただければと思います。



（芳柳寿々笹倭 記）

民 謡 民 舞 連 合 会

スローガンは、「楽しく唄って踊って・・・そして、伝えたい」

本年度は、五月に第五十三回研究発表大会を藤沢市民会館大ホールで行いました。参加会派は十二会派。踊りの会派が九会派、民謡（唄と三味線）の会派が三会派で構成されています。日頃の練習の成果を発表する事はもちろん、会派を越えて踊りの会派と唄・三味線の会派でコレボレーションを試みています。全国の民謡を北から南まで数曲選び、生演奏で踊ること

を行っています。来年度は、もっと楽しい会になるように、企画中です。

十月は、第三回民謡コンクールと民舞発表会の二本立ての催しを藤沢市民会館小ホールで行いました。民謡コンクールは、一曲（持ち時間一分三十秒）を唄い、優勝を競い合います。緊張感ある舞台ですが、それも見どころです。踊りは、一会派二（三曲発表します。皆、華やかで舞台に花が咲いたようにきれいな踊りです。そして、本年度はまた一会派（民謡・三味線）が加わり、十三会派となりました。



（長谷川恵子 記）

藤沢三曲協会

藤沢三曲曲会は、毎年、〓神奈川県名流三曲祭〓に参加している。前回、協会を代表し出演した。二十二年前にも出演した。それぞれのプログラムを比較し、その変化の概要等を記す。会場は、神奈川県横浜市西区紅葉坂の〓神奈川県立音楽堂〓だ。演奏会日時は、令和六年十一月三十日十時三十分〓十八時三十分の八時間だ。二十二年前の時は平成十四年十一月二十四日十時〓二十時三十分の十時間三十分だった。

今回の参加団体は、川崎市三曲協会、横浜三曲連盟、旭区三曲会、保土ヶ谷区三曲会、横須賀三曲会、藤沢三曲協会、都山流神奈川県支部、新都山流神奈川県支部、宗家竹友社神奈川県支部、神奈川県竹友連盟、弥生会、都久山会の十二団体だ。二

新年賀詞交歓会

今年の賀詞交歓会は新年というには微妙な二月一日でしたがお天気に恵まれ、市民会館で聞かれる最後の賀詞交歓会でもありました。ご来賓の方々も最後まで御臨席下さりありがたく思います。和楽器の演奏はお琴尺八やお三味線も見事で、又書道協会のクイズもレベルが高く勉強

十二年前と比べると、横浜市神奈川区三曲協会、鎌倉三曲協会、小田原三曲会、如抱会、横浜市緑区三曲協会、竹心会、梅寿会の七団体名が消え、新都山流神奈川県支部、都久山会の二団体が増えている。

今回の曲数は、三十一曲だ。二十二年前の時は四十二曲だった。舞台上に緋毛氈を敷き、演奏を行った。スタンドマイク等は使わない。曲席から舞台の固定マイク等を確認できなかった。出演者は、舞台上手の袖から舞台に出入りする。楽器搬入は、舞台下手の袖から行われた。演奏中、舞台と袖は、完全にドアで遮断される。舞台袖の雑音を気にせず演奏ができた。

座席数は一〇五四席だそうだった。午後二時頃、座席を見渡した。六十席程度埋まっていた。ホールは、英国ロンドンのロイヤル・フェスティバル・ホ

強になりました。

美術家協会の皆さんが自作の絵を、持ち時間のことも考えて数分ずつ解説して下さいたのは楽しく、興味深かったです。所属以外のジャンルの皆さんの芸や技術を間近で鑑賞できる貴重な機会でした。次回はまず開催場所から探さなくてはなりません。皆様のご協力をお願い致します。

ールを参考に、最高の音響効果をあげるよう設計されたそう
だ。壁面がすべて木で作られて
いる。客席の音響は素晴らし
い。舞台客席側、奥、上手、下
手、すべての位置の音が、その
場にいるように聞こえてくる。

しかし、私達は演奏している時、私は下手端にいた。そして他楽器の音が聞こえにくかった。今回の名流選を十二年前と比較した。その変化は、予想より小さかった。

A photograph showing three performers on a red stage. They are wearing traditional Japanese clothing (kimono). The performer on the left is a woman in a white kimono with a dark pattern. The performer in the middle is a woman in a blue and green patterned kimono. The performer on the right is a man in a grey kimono, holding a red rectangular object. They are all playing a long, low stringed instrument, likely a shamisen, which is positioned horizontally across the stage. The background is a plain, light-colored wall.

（花柳小喜代記）



（川添遊山記）



二〇二四年度（令和六年度）
藤沢市文化団体連合会役員

顧問	顧問	會長	副會長	副會長	事務局長	事務次長	會計	監事	監事	常任理事	常任理事	常任理事	常任理事	常任理事	常任理事	常任理事	常任理事	常任理事	常任理事	常任理事	常任理事						
唐木信允(美術)	宇佐美美泉(書道)	田口宗迪(茶道)	森中志水(邦樂)	川島淳(美術)	間瀬游泉(書道)	稀音家六四次(邦樂)	吉原秀峰(吟詠)	久松如陽(三曲)	長谷川恵子(民謡)	八ッ橋博美(美術)	加藤径石(書道)	山口佳珠(華道)	浅場宗美(茶道)	坂野岳曉(吟詠)	花柳小喜代(舞踊)	松永耕作(雅樂)	吉野勝(美術)	細野果村(書道)	瀬尾理祥(華道)	井田皇韻(華道)	柴田宗実(茶道)	藤本秀統(邦樂)	川添遊山(三曲)	松浦聡子(三曲)	坂東三輝松(民謡)	西川光榮(舞踊)	山谷吉樹(雅樂)

楽しいことにチャレンジ、
挑戦する。(田口迪子 記)

題字 林 如巖
印刷 神奈川印刷株式会社